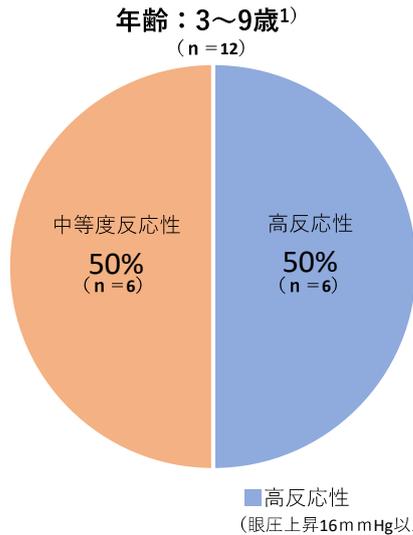


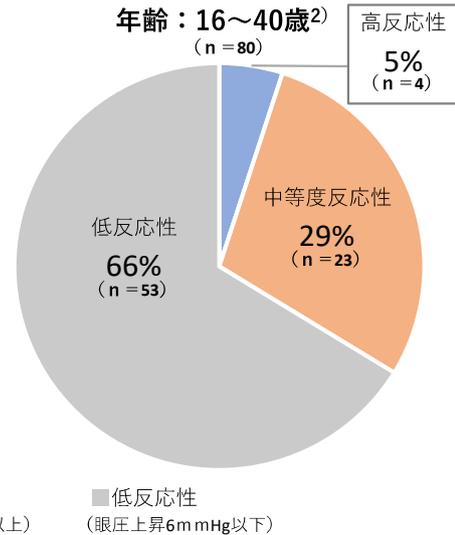
ステロイド点眼薬使用時の注意点

- ステロイド点眼薬の使用により眼圧が上昇することがあります。このような症状が認められる患者さんをステロイド・レスポnderといいます。
- ステロイド・レスポnderは、成人において約1/3、小児ではさらに高頻度に認められると報告されています^{1, 2)}。

ステロイド・レスポnderの発生頻度
(小児)



ステロイド・レスポnderの発生頻度
(健康成人、海外データ)



[試験方法]

■年齢：3～9歳¹⁾

目的：斜視手術を受けた小児患者を対象として、0.1%デキサメタゾン点眼薬による眼圧上昇について検討した。

対象：全身麻酔下で斜視手術を受けた3～9歳の小児12例

方法：斜視手術翌日より0.1%デキサメタゾン点眼薬を1日3回、手術眼に4～5週間点眼した。点眼中に眼圧が28mmHg以上に上昇した症例は0.02%フルオロメロン点眼薬に変更し、さらに4週間投与した。

評価項目・評価基準：0.1%デキサメタゾン点眼薬最終点眼日とステロイド点眼液終了後4週間経過時点での眼圧を比較した。眼圧はGoldmann圧平眼圧計またはnon-contact tonometerにより測定した。

■年齢：16～40歳²⁾

目的：健康成人を対象として、0.1%デキサメタゾン点眼薬による眼圧上昇について検討した。

対象：16～40歳の健康成人80例

方法：0.1%デキサメタゾン点眼薬を1日3回、右目に最低6週間点眼した。

評価項目・評価基準：点眼薬開始4週間後と開始前の眼圧を比較した。眼圧は圧平眼圧計またはシェッツ眼圧計により測定した。

1)大路正人 他:臨床眼科, 46(5), 749(1992)より作図

2)Armaly MF, et al.:Invest Ophthalmol Vis Sci, 4(2), 187(1965)より作図

ステロイド点眼薬による眼圧上昇にご注意ください

- 眼圧上昇は、ほとんどの場合自覚症状がなく、長期間放置すると気づかないうちに緑内障に移行することがあります。
- アレルギー性結膜炎の重症度によってステロイドの種類、点眼回数を決め、漫然と長期におよぶ高濃度ステロイド点眼薬の継続使用は避けてください³⁾。
- ステロイド点眼薬の処方については、眼科医に相談されることをお勧めします。
- ステロイド軟膏の眼瞼塗布においても、同様の眼圧上昇が認められる場合がありますので使用には十分ご注意ください。

3)鼻アレルギー診療ガイドライン-通年性鼻炎と花粉症-2016年版(改定第8版), 第6章 その他, 84(2015)